

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		循環線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
JR鯖江駅 神明駅	市役所	JR鯖江駅 神明駅	10.85
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	5,912	5,891	5,912	5,912
年間利用者数(人) (b)	42,815	43,073	32,995	35,423
平均利用者数(人) (b/a)	7.2	7.3	5.6	6.0
国庫補助額(千円)	2,897	4,348	4,752	5,118
市町補助額(委託額)(千円)	15,666	15,492	17,568	16,178

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	神明駅・公立丹南病院・市役所・西山公園・JR鯖江駅など、市内の主要起点を周回する路線であり、つつじバス利用者全体の約33%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	市街地中央部に集積する生活関連施設を循環することによって、現在の施設立地状況に対応した機能強化、幹線や支線との乗継の確保による利便性の高いサービスを提供する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望が多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		幹線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
神明駅	JR鯖江駅	ラポーゼかわだ	52.5
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	1,080	1,083	1,080	1,080
年間利用者数(人) (b)	10,109	10,844	7,366	8,406
平均利用者数(人) (b/a)	9.4	10.0	6.8	7.8
国庫補助額(千円)	5,533	5,703	5,991	5,695
市町補助額(委託額)(千円)	13,964	14,027	15,923	14,648

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の東西移動を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約8%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	つつじバスのターミナルであるJR鯖江駅、福井鉄道神明駅に、JR北鯖江駅、嚮陽会館を加えた4つの主要乗継拠点、地区乗継拠点(公民館等)、公立丹南病院、産業観光施設等を乗継なしで連絡することによって、市内移動の利便性向上、日常生活交通への対応および隣接都市を結ぶ広域観光の強化を図る必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅・JR北鯖江駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望が多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようとする取り組みだったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスドコサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要			
市町名		路線名	
鯖江市		鯖江南・新横江線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
禰陽会館	JR鯖江駅	禰陽会館	13.4
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標				
年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	1,325	1,328	1,324	1,324
年間利用者数 (人) (b)	4,078	3,820	1,784	1,872
平均利用者数 (人) (b/a)	3.1	2.9	1.3	1.4
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	4,464	4,485	5,154	4,703

3. 当該路線の必要性	
①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の新横江地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約2%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	市内南部において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅、禰陽会館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線		
路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み	
R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではばダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めよう取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。</p> <p>また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		神明線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
公立丹南病院	JR北鯖江駅西口	公立丹南病院	12.85
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	1,568	1,563	1,568	1,568
年間利用者数(人) (b)	7,960	7,655	5,980	6,494
平均利用者数(人) (b/a)	5.1	4.9	3.8	4.1
国庫補助額(千円)	1,148	2,009	1,780	1,925
市町補助額(委託額)(千円)	4,800	4,745	5,371	4,945

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の神明地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約6%を当路線が占める。
③当該路線の必要性	神明地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点である福井鉄道神明駅、JR北鯖江駅を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅・JR北鯖江駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要			
市町名		路線名	
鯖江市		片上・北中山線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
公立丹南病院	神明駅・高年大学	公立丹南病院	24.7
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標				
年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	1,642	2,049	2,300	2,300
年間利用者数 (人) (b)	8,113	8,035	6,059	6,276
平均利用者数 (人) (b/a)	4.9	3.9	2.6	2.7
国庫補助額 (千円)	2,264	3,979	3,516	3,801
市町補助額 (委託額) (千円)	9,476	10,015	11,341	10,485

3. 当該路線の必要性	
①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の片上・北中山地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約6%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	片上地区、北中山地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR北鯖江駅や福井鉄道神明駅、地区乗継拠点である北中山公民館、中河公民館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線		
路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅・JR北鯖江駅

5. 生産性向上に関する取組み	
R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではばダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		立待線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
神明駅	公立丹南病院	神明苑	12.55
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	1,568	1,563	1,568	1,568
年間利用者数 (人) (b)	8,266	8,315	6,065	6,931
平均利用者数 (人) (b/a)	5.3	5.3	3.9	4.4
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	4,625	4,578	5,180	4,779

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線
②利用の状況	鯖江市の立待地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約6%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	立待地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点である福井鉄道神明駅や地区乗継拠点である立待公民館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの更新検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要			
市町名		路線名	
鯖江市		吉川線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
神明苑	公立丹南病院	神明苑	15.4
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標				
年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	1,812	1,803	1,812	1,812
年間利用者数 (人) (b)	11,269	11,024	8,693	6,931
平均利用者数 (人) (b/a)	6.2	6.1	4.8	3.8
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	6,639	6,684	7,520	6,924

3. 当該路線の必要性	
①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線
②利用の状況	鯖江市の吉川地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約8%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	吉川地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点である福井鉄道神明駅、地区乗継拠点である吉川公民館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線		
路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

5. 生産性向上に関する取組み	
R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではばダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めよう取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要			
市町名		路線名	
鯖江市		豊線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
JR鯖江駅	禰陽会館	JR鯖江駅	16.75
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標				
年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	1,568	1,563	1,568	1,568
年間利用者数 (人) (b)	10,685	8,317	6,642	5,976
平均利用者数 (人) (b/a)	6.8	5.3	4.2	3.8
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	7,372	7,307	8,256	7,644

3. 当該路線の必要性	
①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の豊地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約6%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	豊地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅や禰陽会館、地区乗継拠点である豊公民館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線		
路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み	
R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではばダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望が多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要			
市町名		路線名	
鯖江市		中河・北中山線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
禰陽会館	JR鯖江駅・高年大学	上戸口北	15.9
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標					
年度		H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回)	(a)	1,568	1,563	2,776	2,776
年間利用者数 (人)	(b)	6,113	5,270	3,428	3,610
平均利用者数 (人)	(b/a)	3.9	3.4	1.2	1.3
国庫補助額 (千円)		2,369	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)		9,273	10,261	11,566	9,949

3. 当該路線の必要性	
①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の中河・北中山地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約3%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	中河地区、北中山地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅や禰陽会館、地区乗継拠点である中河小学校前、北中山公民館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線		
路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み	
R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望が多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要			
市町名		路線名	
鯖江市		河和田線	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
禰陽会館	JR鯖江駅・高年大学	釜泉前	19.85
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標				
年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	1,886	2,043	3,264	3,264
年間利用者数(人) (b)	25,130	23,216	16,464	16,513
平均利用者数(人) (b/a)	13.3	11.4	5.0	5.1
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	14,120	14,606	16,893	15,717

3. 当該路線の必要性	
①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	鯖江市の河和田地区を網羅する路線であり、つつじバス利用者全体の約16%を当路線が占める。
③当該路線の必要性	河和田地区、北中山地区において、地区内の集落を巡回し、主要乗継拠点であるJR鯖江駅や禰陽会館、地区乗継拠点である河和田公民館、北中山公民館を連絡することによって、より身近なところにバス停を設けるなどきめ細かい対応によって公共交通による人口カバー率向上を目指し、誰もがどこへでも歩いて行ける交通環境を実現する必要がある。

4. 接続する広域路線		
路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み	
R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではばダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 市内高校ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
JR鯖江駅	丹南高校	福井高専	5.6
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	597	597	426	453
年間利用者数(人) (b)	6,823	5,372	3,163	3,598
平均利用者数(人) (b/a)	11.4	9.0	7.4	7.9
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	609	611	541	531

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	市内の丹南高校や福井高専などを通る路線であり、学生の通学利用が多く、つつじバス利用者全体の約3%を当該路線が占める。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅であるJR鯖江駅、福井鉄道西鯖江駅と丹南高校、福井高専を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要重点の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 片上・北中山ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
北中山公民館	JR鯖江駅東口	神明駅	13.4
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	102	102	98	64
年間利用者数(人) (b)	144	42	51	71
平均利用者数(人) (b/a)	1.4	0.4	0.5	1.1
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	331	329	356	329

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	冬季期間(12月～2月)のみの運行となっており、主に片上・北中山地区の通勤・通学の足として利用されている。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅であるJR北鯖江駅、福井鉄道神明駅と各地区主要箇所を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望点の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めよう取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 立待ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
石田中	立待公民館	神明駅	8.9
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	102	102	98	64
年間利用者数 (人) (b)	308	260	307	218
平均利用者数 (人) (b/a)	3.0	2.5	3.1	3.4
国庫補助額 (千円)	110	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	220	218	237	218

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線
②利用の状況	冬季期間(12月～2月)のみの運行となっており、主に立待地区の通勤・通学の足として利用されている。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅である福井鉄道神明駅と各地区主要箇所を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望が多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスドコサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 吉川ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
石田中	吉川公民館	神明駅	10.45
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数 (回) (a)	102	102	98	64
年間利用者数 (人) (b)	178	278	257	352
平均利用者数 (人) (b/a)	1.7	2.7	2.6	5.5
国庫補助額 (千円)	0	0	0	0
市町補助額 (委託額) (千円)	256	259	279	256

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線
②利用の状況	冬季期間(12月～2月)のみの運行となっており、主に吉川地区の通勤・通学の足として利用されている。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅である福井鉄道神明駅と各地区主要箇所を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所
鯖浦線	福鉄バス	神明駅

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望点の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。</p> <p>また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 豊ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
冬島	豊公民館	JR鯖江駅	10.95
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	102	102	98	64
年間利用者数(人) (b)	144	35	24	43
平均利用者数(人) (b/a)	1.4	0.3	0.2	0.7
国庫補助額(千円)	0	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	309	308	333	308

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	冬季期間(12月～2月)のみの運行となっており、主に豊地区の通勤・通学の足として利用されている。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅であるJR鯖江駅、福井鉄道西鯖江駅と各地区主要箇所を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的ではほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要重点の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようと取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 中河・北中山ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
上戸口北	北中山公民館	JR鯖江駅	13.75
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	102	102	98	64
年間利用者数(人) (b)	13	6	32	31
平均利用者数(人) (b/a)	0.1	0.1	0.3	0.5
国庫補助額(千円)	195	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	346	348	382	350

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	JR北陸本線
②利用の状況	冬季期間(12月～2月)のみの運行となっており、主に中河・北中山地区の通勤・通学の足として利用されている。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅であるJR鯖江駅と各地区主要箇所を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望点の収集を行った。その中で最も要望の多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようとして取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>

市町内交通分析シート

1. 路線の概要

市町名		路線名	
鯖江市		通学便 河和田ルート	
起点	主な経由地	終点	系統キロ程 (km)
鉾泉前	JR鯖江駅	嚮陽会館	14.05
運賃体系		1回乗車あたり100円(小学生以下および障がいのある方は人等は無料)	

2. 当該路線に係る指標

年度	H30	R1	R2	R3
年間運行回数(回) (a)	400	400	284	302
年間利用者数(人) (b)	1,431	1,671	1,871	1,466
平均利用者数(人) (b/a)	3.6	4.2	6.6	4.9
国庫補助額(千円)	423	0	0	0
市町補助額(委託額)(千円)	1,388	1,393	1,130	1,036

3. 当該路線の必要性

①並行鉄道・バス路線の有無	福井鉄道福武線 JR北陸本線
②利用の状況	通年の運行となっており、主に河和田地区の通勤・通学の足として利用されている。
③当該路線の必要性	朝夕の通学時間帯に主要鉄道駅であるJR鯖江駅と各地区主要箇所を連絡することによって、通学の利便性を改善する必要がある。

4. 接続する広域路線

路線名	運行事業者	接続停留所

5. 生産性向上に関する取組み

R3年度に実施した取組みおよびその結果・効果	<p>本市のコミュニティバスは平成29年4月から大きくダイヤ見直し等を行ってきたが、それ以降は定着を図る目的でほぼダイヤを据え置いて運行してきたところである。</p> <p>令和3年度については、令和4年度4月のダイヤ改正を見据え、令和3年の12月に鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の策定を行った。これらの計画策定にあたり、過去の利用者や各地区からの要望・問合せ事項を見直すとともに、令和3年10月にはつつじバス利用者に対して市民アンケートの実施を行い、ダイヤ改正実施に向けて問題や改善要望の収集を行った。その中で最も要望が多かった運行本数の増加および土日祝日運行便の拡充、また各地区路線から循環線への乗継ぎ利便性の向上について、令和4年度の新ダイヤに反映するダイヤおよび路線の設定とした。また、新年度ダイヤの携帯時刻表について利用者が分かりやすい表記への変更および、末尾には各地区路線から循環線への乗継ぎ早見表の掲載を行った。</p> <p>また、令和3年度における利用促進策としては、令和2年度に引き続き各地区の高齢者サロンに出向き、バスのお得な制度や利用方法、乗り継ぎ方法を教える講座を実施することで利用促進に努めようとする取り組みだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、講座を当初予定のとおり開くことができなかった。(当初予定数：15回、実績：1回)</p>
今後の取組みの予定、目標	<p>令和4年4月より路線およびダイヤの改正を行ったことから、新たな路線における利用者定着を目指す。令和3年度同様、各地区の高齢者サロンに出向き、つつじバスについての講座を行うとともに、既存の情報発信ツール(つつじバスバスどこサービス)の周知を市のHP等を活用して実施する。また、鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画の施策実施スケジュールに従い、新たな利用者増加に向けた取組みも行う。令和4年度については、突発的な運行経路の変更や運休等を新たなSNSツール(Facebook, Twitterなど)を利用してバス停掲示以外の発信を行うことで利用者の利便性を高める。また、これらのSNSツールを活用したお得な制度の発信等も合わせて行う。また、一部車両については更新の時期を迎えていることからバスラッピングについても、現在のデザインから一部変更を行うことで、市民に対してつつじバスの認知度を高める取組みを実施する。その他、バス停表示看板デザインの変更検討および1日フリー乗車券導入の検討などを行う。</p>